

令和3年10月20日

令和3年度 第一回 学校関係者評価委員会

[評価委員]

広島市立戸坂中学校 校長 澤井 様
広島城北中・高等学校 PTA 会長 高見 様
広島城北高等学校同窓会 副会長 木原 様

[学校からの出席者]

松井校長 中川教頭(司会) 大下教頭(記録)
麻野総務部長(記録) 徳丸教務部長 宮本生徒部長 下木進路指導部長
ブランチ国際部長 亀田入試広報部長

① 「令和3年度目標値」に対する質疑応答

Q: ワクチン接種はどれくらいか。

A: ワクチン接種の有無については学校として確認はしていないが、保護者からの連絡によると半数以上の生徒が接種しているように思う。

Q: 校内外での「貢献」とはどのようなことを指すのか。

A: 家庭での手伝いとか、交通マナーを守るとか日常的なものも含めて貢献と捉えている。

Q: 海外短期研修は、希望すれば参加できるのか。

A: 参加希望者を募集し、その中から選考する。

Q: シラバスとはどのようなものなのか。

A: 年間の授業計画や評価について生徒に示したもので、年度初めの授業で配布して説明している。

Q: 学習時間を増やすためにどのように対応しているか。

A: 日々の家庭学習時間を手帳やタブレットで生徒が記録している。それをもとに宿題の出し方や勉強方法などを教員間で共有し、担任が面談などを通して指導している。

Q: ICT 機器はどのように活用されているか。

A: iPad を生徒全員が活用している。授業中には生徒個々の考えを共有したり、理科の実験や体育の実技を生徒同士で撮影して考察したり技術向上に役立てている。授業後の復習や宿題提出等にも活用している。

② 「目標達成のための手立て」に対する意見

城北プライドに関するアンケート結果について

- 城北プライドに関するアンケートは今後も続けてほしい。一貫教育の中だるみも見て取れる。また学年によるカラーも見える。例えば、高2と中3、高1と中2、高3と中1の数値が似ているように見える。結果を一方向からでなく、様々な角度から考察することで、学校や学年の課題も見えてくる。また経年変化を追いかけることもできる。それらのことと日々の先生方の観察によるものによって改善策が考えられるのではないかな。
- 「志」という言葉が多く出てきている。高い目標をもつことは大切で、自己肯定感につながる。
- 公立では今年12月にタブレットを使い始める。城北はこの点でリードしていて、十分に活用されている。ICT関係についてはもっと高い評価でも良いのではないかな。
- 生徒募集等において、同窓会をぜひとも利用していただきたい。
- 学習合宿など、取り組みが進化していることを実感した。卒業生の一人として、自分は仲間や恩師に恵まれていたと思っている。生徒だけでなく先生方にも城北プライドを持ってほしい。そのことで、先生も生徒ももっと輝くのではないかな。生徒に寄り添った教育を進めていただきたい。
- 60周年に際してPTAからデジタルサイネージを寄贈した。情報発信に積極的に活用を進めてほしい。

令和3年度 学校関係者評価シート（中間評価）

令和3年10月20日

学校名	広島城北中・高等学校	校長名	松井 太	全日制課程
-----	------------	-----	------	-------

評価項目	評価	参考評価項目等
目標、指標、計画の妥当性	A	<input checked="" type="checkbox"/> 課題を踏まえた適切な目標等の設定である。 <input type="checkbox"/> 目標等の設定には課題の分析が今少し弱い。 <input type="checkbox"/> 課題の分析が不十分であり妥当性に欠ける。 <input type="checkbox"/> 課題と対応の指標等が大きくかけ離れている。
計画の進捗状況に係る評価	B	<input type="checkbox"/> 計画に基づいた取組が適切に進められている。 <input checked="" type="checkbox"/> 計画は進めているが今少し対応が遅い。 <input type="checkbox"/> 計画の種類によって進捗にばらつきがある。 <input type="checkbox"/> 計画はあるが極めて対応が遅く効果的でない。
目標達成の取組に係る評価	B	<input type="checkbox"/> 目標達成に向けて確実に対応が進んでいる。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標達成の取組に今少し具体的対応が欲しい。 <input type="checkbox"/> 目標達成の指標は分掌でばらつきが見られる。 <input type="checkbox"/> 目標達成を設定しているが効果が見られない。
評価結果の分析に係る評価	B	<input type="checkbox"/> 自己評価としての的確な分析結果である。 <input checked="" type="checkbox"/> 自己評価としてやや抽象的な分析が見られる。 <input type="checkbox"/> 自己評価はするものの一方的な分析である。 <input type="checkbox"/> 全く妥当性を欠いた自己評価と分析である。
今後の改善方策の妥当性	A	<input checked="" type="checkbox"/> 改善方策が具体的であり大いに期待できる。 <input type="checkbox"/> 改善方策が分掌によってやや温度差がある。 <input type="checkbox"/> 改善方策として抽象的な対策が多く見られる。 <input type="checkbox"/> 改善方策として抽象的で妥当性を欠いている。
総合評価	A	<input checked="" type="checkbox"/> 教務、進路の「評価指標」で客観性が高まった。 <input type="checkbox"/> 客観性を高めるには今少し具体性が欲しい。 <input type="checkbox"/> 「評価指標」としては説得力に欠ける。 <input type="checkbox"/> 具体性、客観性を担保できる指標が欲しい。

(注) 評価：「A適切」「Bほぼ適切」「Cやや適切さに欠ける」「D不適切」

1 建学の精神

英才教育の徹底
道徳教育の徹底
錬身教育の徹底

日本のみならず海外をも視野に入れた大学進学をめざす中高一貫教育の推進
個性が豊かで、自分や人を大切にする姿勢を持つ良識ある青少年の育成
質実剛健にして、心身ともに豊かさを自ら育もうとする青少年の育成

2 校訓

「学んで厭かず、教えて倦まず」

3 ミッション

グローバル・マインドを持ち、21世紀のリーダーとして国際社会の平和と発展に寄与する人材を育成する。

4 ビジョン（使命の追及を通じて実現しようとする自校の将来像）

- | | |
|---|--------------|
| ① 進学校として特色ある教育活動（医進・特進・国際・探究活動等）が広く認知され、安定した入学者が確保されている。特色ある進学校 | |
| ② すべての教育活動を通じて、高い志と行動力に裏打ちされた城北生としてのプライドが育っている。 | プライド・リーダーシップ |
| ③ 社会の多様性を理解し、平和で持続可能な社会の実現に向けて自発的に取り組む生徒が育っている。 | 持続可能性・国際理解 |
| ④ 「6年制」「3年制」それぞれが強みを発揮し、系統性と計画性を持たせた学習指導・進路指導が成果を挙げている。 | 系統的・計画的指導 |
| ⑤ 「習得・活用・探究」のサイクルを意図した指導の下、「主体的・対話的で深い学び」が実現されている。 | 探究的学び |

5 今年度の教育目標

- | | |
|---|---------------|
| ① 本校のあらゆる教育活動を通じて、高い志と行動力に裏打ちされた「城北プライド」を育む。 | プライド・リーダーシップ |
| ② 世界の動向や日本の現状を多様な視点から捉え、平和で持続可能な社会の実現に向けて意欲的に取り組む生徒を育成する。 | 持続可能性・国際理解 |
| ③ 「6年制」「3年制」それぞれの強みを見極め、系統性と計画性を持たせた学習指導・進路指導を構築する。 | 系統的・計画的指導 |
| ④ 医進コース・特進クラス及び新しい探究活動等のために、時代の変化に対応した教育内容の開発と校内の指導体制を構築する。 | 特色ある進学校・探究的学び |

6 教育目標・活動策定に係る環境分析

(1) 本校を取り巻く状況と課題

学校の外部環境	学校の内部環境
<p>強み (S)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 学校行事に積極的に参加する生徒が多い。 ② 学業と部活動の両立を図り、未来を切り開く生徒が多い。 ③ 生徒の持つ学力を細かく分析し指導することで、多くの生徒の学力が伸びる可能性を秘めている。 ④ 外国人教師が5名おり、英語教育をはじめ国際理解教育を推進している。 ⑤ 海外研修プログラムが充実している。 ⑥ 教育施設が充実している。 ⑦ 休校時にICTを使ったオンラインの指導を組織を挙げて行う体制が整っている。 	<p>弱み (W)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 中高一貫教育の強みをさらに発揮する必要がある。 ② 学習習慣の定着が課題となる生徒がいる。 ③ 中学校の志願者が減少傾向にあり、歩留まり率が低い。 ④ 高等学校の志願者数が伸び悩んでいる。 ⑤ 組織的・計画的な教科教育力の向上に向けた取り組みがさらに必要である。 ⑥ 立地条件が悪く通学に抵抗感を持たれる傾向がある。また学校選択先として市内中心部への指向は根強い。
<p>機会 (O)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 私立中高一貫の男子校として一定の評価がある。 ② 「面倒見の良い学校」として評価がある。 ③ ICT機器を活用した授業実践に、校外から関心を持たれている。 ④ PTA・同窓会などが協力的である。 ⑤ 連携に協力的な大学・企業がある。 ⑥ 英語運用能力への関心が高まっている。 ⑦ 学習指導要領の改訂と並行して、探究活動を発信する機運が高まっている。 ⑧ 医学科進学コースの初年度の取組に注目が集まっている。 	<p>脅威 (T)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 少子化による受験人口の減少 ② 近隣の学校の共学化や特色ある取組により生徒の志望動向に大きな変化がみられる。 ③ 特定の公立学校の人気の高さ ④ 広島市内中学での高校入試における本校の認知度の伸び悩み ⑤ 校外での生徒のマナーについて指摘を受けることがある。 ⑥ 新型コロナ感染拡大により、休校措置や行事の中止等への懸念が払しょくされていない。特に強みの海外研修が十分実施できない。

7 目標：年度末評価時には次のような評価基準で評価するが、中間評価時点ではそれまでに得られたデータや参考となる数値とコメントのみ記載している。

目標達成についての評価 A:90%以上 目標を超えた。 B:90~60% ほぼ目標に届いた C:60~40% 目標に近づきつつある D:40~20% 幾分進展がみられる
E:20%未満 取組みが滞っている。

1 本校のあらゆる教育活動を通じて、高い志と行動力に裏打ちされた「城北プライド」を育む。							
達成目標	評価指標		実績値	目標値	中間評価と理由等		担当
			2年	3年度			
志を持ち高い目標に挑戦する勇気を持った生徒を育てる。	進路実現とそのため学習において高い目標を設定し具体的に行動ができていますか？ 自己評価が高い順A~Eのうち A+Bの割合		なし	50%	37.8%	A+Bは全校の37.8%で学習に課題抱える生徒が相当数存在。高3は54.5%で唯一目標クリア。	総務部 学年会
	部活・習い事など校内外の自主的な活動において高い目標を設定し具体的に行動ができていますか？ 自己評価が高い順A~Eのうち A+Bの割合		なし	50%	50.3%	A+Bは全校該当者のうち50.3%で高校生はどの学年も目標達成。部活が生徒の生活に重要な位置を占めていることがわかる。	
他者や社会に貢献する勇気を持った生徒を育てる。	校内外において自発的に貢献する行動がとれたか？ 自己評価が高い順A~Eのうち A+Bの割合		なし	50%	55.7%	A+Bは全校の55.7%で全校で貢献を意識している生徒過半数を超えている。	
「学んで厭わず、教えて倦まず」の校訓の精神を実践する生徒を育てる	・数値目標は設定せず。						

2 世界の動向や日本の現状を多様な視点から捉え、持続可能な社会の実現に向けて意欲的に取り組む生徒を育成する。								
達成目標	評価指標		実績値	目標値	中間評価と理由等		担当	
			2年度	3年度				
世界の動きに興味・関心を向けるとともに、	生徒の興味を示す数値	海外短期研修の	オーストラリア	中止	中止	—	コロナ禍の下で予定通りの実施が困難であった。	国際部
		応募者数	イギリス	中止	中止			

積極的に異文化に触れ、コミュニケーションが図れる生徒を育む。		韓国	中止	中止	—	
		インドネシア	中止	中止	—	
		Year 留学・Term 留学	—	—	—	
		受入プログラムのホストファミリー	中止	中止	—	
		中学インターナショナルフレンドシップキャンプ	中止	中止	—	
		外部のイベント (スピーチコンテスト等)	2人	—	17人	
		インターナショナルクラブ加入者数 (短期研修参加者含む)	2人	10人	10人	
		韓国語講座参加者数	36人	25人	19人	
		NEWSLETTER 編集に関わる生徒数	19人	15人	10人	
		提携校オンラインサミット (検討中)	12人	20人	—	
		GTEC (実績値は改定前の総点による)	高2 (アドバンス 3 技能 960 点) スコア 832 以上	46.5% 92/198人	全学年 50%	—
			高1 (ベーシック 4 技能 810 点) スコア 702 以上	51.6% 110/213人	全学年 80%	—
	上記に加えて国際部の活動を示す数値	ゲストスピーカー講演会	中2Discovery	—	—	—
			中2・3全学年	—	—	—
		国際関係 LHR (中1・1回, 中2・2回, 中3・1回)	—	—	—	
		NEWSLETTER (情報雑誌) 発行	3回	3回	0回	
		P T A 新聞に掲載する国際部関連記事		1記事	—	
		デジタルサイネージコンテンツの更新	139	毎週	152	
来訪の海外生徒との交流行事		中2Discovery の授業	—	—	—	
		全校歓迎集会	—	—	—	

			体育祭・文化祭	—	—	—		
--	--	--	---------	---	---	---	--	--

3 中高一貫教育の強みを発揮し、中学1年生から高校3年生まで系統性を持たせた指導を展開する。									
達成目標	評価指標			実績値	目標値	中間評価と理由等	担当		
				2年度	3年度				
① 基本的な生活習慣を確立する	目標の性質上数値による評価指標は設定しない							生徒部	
② 生徒が、自主的・積極的に運営参加する学校づくりを目指す。 ③ 生徒自らが、他者を思いやり、地域に愛される学校となるべく、生徒会が中心となり城北モラルを向上させる。	地域のボランティア活動への参加			2	4	2	コロナ禍の中、行事も中止になり生徒会の活動も思うようにできていない。	生徒部	
	登下校時マナーアップへの呼びかけ			4	5	3			
	先進的な他校生徒会執行部との交流			3	4	3			
	中高合同で行う校内行事の検討			2	3	2			
④ 系統立てた学びにより、学習意欲等が高まっている。	生徒の授業満足度			83%	80%	84%	生徒の授業満足度は代ゼミの授業評価アンケートから算出した。教	教務部	
	シラバス作成の進捗管理			60%	100%	90%			
⑤ 年間授業時数が確保できている。	年間授業時数(1単位当たり)			35時間	35時間	35時間	科主任の協力もあり年度初めの授業時にシラバスを配布説明を行った。		
⑥ 基礎学力の定着・向上を図り、積極的に自己実現を図る生徒を育成する。	家庭学習時間(トータルとして)		中1	平日	1.1時間	2.0時間	1.1時間	5月6月の学習時間調査をもとに算出した。試験週間と試験2週間ということもあり平日も学習時間が増えた。	教務部
				休日	2.5時間	3.0時間	3.0時間		
			中2	平日	1.3時間	2.0時間	1.8時間		
				休日	2.1時間	3.0時間	3.8時間		
			中3	平日	1.2時間	2.0時間	1.8時間		
				休日	2.1時間	3.0時間	3.8時間		
高1	平日	1.6時間	2.5時間	1.2時間					
	休日	2.2時間	3.5時間	3.7時間					

		高2	平日	2.2時間	3.0時間	1.7時間		
			休日	3.0時間	4.0時間	4.1時間		
		高3	平日	2.6時間	5.0時間	2.8時間		
			休日	6.7時間	7.0時間	5.8時間		
⑦ 模試目標偏差値を達成する。	全統模試第3回(高1・11月) *昨年実施せず。 ()は進研模試結果で参考値	偏差値70以上		(6)	10人	0 (前年0)	8月末実施の第2回全統模試の結果を中間報告として掲載。前年度までの模試と偏差値の出方が異なるため、単純比較はできないが、同一模試の比較においては高1は偏差60以上で7名の減。高2は9名の減。上位の生徒が減少しているものの、全体の平均偏差ではほぼ同じ結果となっている。上位が減っている原因は高1では数学、高2では国語で減少がみられる。	進路指導部
		偏差値60以上		(54)	55人	9 (前年16)		
	進研模試11月(高2・11月)	偏差値70以上		12	15人	0(前年0)		
		偏差値60以上		41	55人	13 (前年22)		
⑧ 旧帝大等の難関大10名、広島大20名、早慶上理30名、関関同立100名以上が合格する。	大学合格者数	旧帝大クラス		13	10人	未		
		広大		16	18人	未		
		早慶上理		29	25人	未		
		関関同立		97	100人	未		

4 時代の変化に対応した、教育内容の開発と校内体制の構築を図る。						
達成目標	評価指標	実績値	目標値	中間評価と理由等		担当部等
		2年度	3年度			
① 主体的・対話的で深い学びの実現に向け、ICT機器の活用を含めた特色ある授業実践に取り組む。	「授業改善シート」の提出	45%	80%	90%	令和3年度に改定した教育課程を元に新課程である令和4年度の教育課程を作成した。	教務部
② 新学習指導要領に対応した教育課程を作成する。	工程表をもとにした進捗管理	90%	新教育課程を作成する	100%		

			(6月末)				
③ 城北の魅力を、機会をとらえて積極的に情報発信する。 学校行事だけでなく日常的な教育活動について、学校の魅力を積極的に校外に発信することにより、受験者数の確保に繋がる情宣活動を推進する。	受験者層への興味・関心の喚起（受験者数）	6年制コース	607 (入学者169)	620人	年度末に評価	年度末に評価 高校入試説明会では140人昨年より微増。中学入試説明会昨年並みの出席者予定。	入試広報部
		3年制コース	104 (入学者55)	190人(入学者80)	年度末に評価		
④ 医進コース・自主的探究活動のカリキュラム開発と広報活動を進める。		医進コース	入学者8人	20人	年度末に評価	8月の説明会参加者26組	医進コース担当者
		FLIP	参加者数	20人	年度末に評価	10月現在参加者15名	探究活動企画委員会
⑤ 新型コロナウイルス感染防止対策を推進する。	数値による評価指標は設定しない						総務部

8 目標達成のための手立て（「戦略」） 中間評価では特に取組の進捗状況の評価することが中心となる。次のような基準で評価する。

A：目標に向けて計画以上に進展している。

B：目標に向けて計画通りに進展している。

C：目標に向けて不十分な点もあるが概ね計画通りである。

D：目標に向けての取組が不十分である。

E：目標に向けて取組がほとんど手付かずである。

1 本校のあらゆる教育活動を通じて、志と行動力に裏打ちされた「城北プライド」を育む。				
達成目標	本年度行動計画	進捗について中間評価と理由等		担当
志を持ち高い目標に挑戦する勇気を持った生徒を育てる。	・7月に高い目標をについて説明し、1学期終了時（中間評価時点）、年度末に評価表に基づいて達成度をABCDEで自己評価する。	C	終業式や学年集会等で「城北プライド」「挑戦」について確認したり振り返りをしている。各担任が面談等で働きかけている。学年で統一した具体的な動きがまだ十分とは言えない。	総務部 学年会
他者や社会に貢献する勇気を持った生徒を育てる。	・7月に校内・校外での貢献活動について説明をし、1学期終了時（中間評価時点）、年度末に評価表に基づいて達成度をABCDEで自己評価する。	C		
「学んで厭かず、教えて倦まず」の校訓の精神を实践する生徒を育てる	・「学んで厭かず、教えて倦まず」を折に触れて繰り返し説く。生徒に書かせ唱えさせる。			

2 世界の動向や日本の現状を多様な視点から捉え、持続可能な社会の実現に向けて意欲的に取り組む生徒を育成する。				
達成目標	本年度行動計画	進捗について中間評価と理由等		担当
世界の動きに興味・関心を向けるとともに、積極的に異文化に触れ、コミュニケーションがはかれる生徒を育む。	COVID19の影響により、今年度は、すべての海外短期研修及び受け入れプログラムを中止した。国際感覚、異文化理解、国際交流及び校内における国際的な雰囲気涵養するために、代替案を	B	職員室前のデジタルサイネージでは海外・国内のニュースや、海外の都市に関する情報を発信し、合計で150回以上の更新をした。またはコロナ後の国際プログラムに関する情報が、ディスカバリーの授業（総合的な学習）を通じ	国際部

	導入する計画を立てる必要がある。		て広められた。	
	COVID19の現状を鑑み、令和3年度の研修プログラム再開に向けて、交流先の状況や外務省のガイドラインなどの情報を集める。	A	現在も、毎日外務省のHPを閲覧するなど、国内や海外の状況に関する情報を集めている。	国際部
	令和3年度の研修プログラムを計画する段階で、改善点を考え実施する。	A	令和4年度研修プログラムを計画する中で、改善できる箇所を改善する。現在、まだ令和4年度に短期研修プログラムを実施できるかどうかの目処が立っていないため、評価はできない。コロナのためにプログラムに参加できなかった学年でも参加できるように、参加可能な学年を複数に増やすことも検討する。	国際部
	管理職、部署、生徒レベルで姉妹校と強い連携を保つ。	B	姉妹校の校長同士、国際部同士で情報の伝達ができている。	国際部
	英語科と連携して、GTEC・英検等の受験を促進する。	A	デジタルサイネージを使って英検とGTECの受験を推進している。国際ニュースレターを通じてそれらを宣伝する計画もある。	国際部・英語科
	地域社会や城北に入学を考えている小学生や中学生に対して、より効果的に城北の国際活動を宣伝する。	B	夏休みには小学生を対象とした1日イベントを開催した。同様のイベントは、現在、3学期または春休みに計画している。	国際部
	国際ニュースレターの内容や配信を改善し、生徒に令和3年度の研修プログラムに興味を持たせ続ける。	C	今年の最初のニュースレターは、11月に生徒に配布される予定。内容は現在、インターナショナルクラブ生によって作成および整理されている。デジタル配信に関して、生徒から否定的な評価があった。したがって、紙のニュースレターを令和4年度実施に向けて検討中。	国際部
	短期研修の事前学習から研修後の学習で参加生徒がどのような点でどれほど成長したかを調査し、短期研修が参加生徒にどのように働いたかを検証する。	—	短期研修プログラムの実施自体の目処がたっていないため、評価はできない。	国際部

	3年度海外研修・国際部のグランドデザインを作成する。	—	COVID19の影響により、以前に作った令和3年度からのグランドデザインは破棄せざるを得なくなった。現在もグランドデザインの内容を検討中である。	国際部
--	----------------------------	---	--	-----

3 中高一貫教育の強みを発揮し、中学1年生から高校3年生まで系統性を持たせた指導を展開する。				
達成目標	本年度行動計画	進捗について中期評価と理由等		担当
① 基本的な生活習慣を確立する	個人面談やLHRなどを通じて望ましい生活習慣の確立を図る。	B	どの学年も計画的に LHR や面談により生活習慣の指導体制が定着している。	学年会
	校舎内での右側通行を徹底するとともに三密にならない配慮も含め授業や登下校時のマナー意識を育てる。	C	昼食時も含め学校内での三密にならないように配慮しているが登下校時のマナーについては、外部の方からご指摘を受けることがある。	生徒部
	LHR・道徳・個人面談・三者懇談等で相談体制を確立する。	B	学年会を中心に、生徒の情報を共有し相談体制を敷くことは定着している。	学年会
	様々な課題を抱える生徒の支援について学年会とカウンセラーとのミーティングを学期毎に実施する。	C	担任・学年主任とスクールカウンセラーとの綿密な連携はできておりそこから学年会へと共有化を進めている。しかしスクールカウンセラーと学年会の間という設定でのミーティングができていない。配慮の必要な生徒について、職員間で専門家の見識を直に共有することは必要であり実施の検討をする必要がある。	総務部 学年会
② 生徒が、自主的・積極的に運営参加する学校づくりを目指す。	帰属意識を高める行事を具体化する。 中高合同運動会を実施する。	C	コロナ禍の中、行事の多くは中止になり生徒会活動も思うようにできていないため。 10月末に文化祭の代わりに展示をし、生徒や保護者に公開する行事を設けることができた。	生徒部 総務部
③ 生徒自らが、他者を思いやり、地域に愛される学校となるべく、生徒会が中心となり城北モラルを向上させる。	中学生、高校生が協力して地域に貢献できるボランティア活動を実施する。			

④ 系統立てた学びにより、学習意欲等が高まっている。 ⑤ 年間授業時数が確保できている。	新学習指導要領の改訂に基づき、学習意欲の向上につながる魅力ある教育課程の編成を8月を目標に進める。	B	科目選択の前倒しを行い、受験科目の早期決定を行い学習意欲向上に向けて教育課程を編成した。	教務部
	休校中の環境の中で、オンライン、ICT機器等を活用した生徒の家庭学習のフォローアップを行う。	B	休校時の課題の配信や欠席した生徒への授業の教材などの配信など家庭学習の支援を行った。	教務部 学年会
⑥ 基礎学力の定着・向上を図り、積極的に自己実現を図る生徒を育成する。	家庭学習時間の記録を生徒の学習に関する指導助言に活用する。	B	家庭学習の時間を集約し、教室掲示を行った。家庭学習時間の量と科目バランスについて生徒に指導助言を行っている。	教務部 学年会
	放課後の学習時間の確保、学習場所の整備等に関する具体的な方策を構築する。	B	放課後の図書館を自習室として、利用を促した。	教務部 生徒部 総務部
⑦ 模試目標偏差値を達成する	中学1年次から大学を意識させる進路指導を行う。早期の段階から難関大学に憧れを抱くような進路LHRを計画し、成績上位層の人数を増やす取り組みとして、希望補習や模試の事前・事後指導を実施する。	C	中学段階から、職業を意識した指導、大学を意識した指導を段階的に実施している。中3生には大学の出張講義なども実施。高校では学部学科・大学に焦点化した指導を実施している。中学「進路サポート」高校「学びみらいPASS」などを活用している。各学年の進路意識を高めるLHRでの取り組みについては概ね順調に進んでいる。一方、高校の進路意識を高める取り組みとして柱の一つに考えていた学習合宿についてはコロナ感染拡大のあおりを受け、急遽学校での実施に変更したが、大雨の影響で大幅な短縮となり、目的の達成はできなかった。また、各大学のキャンパスツアーについても大学側のイベント縮小もあり学年単位で参加することもできなかった。ただし、それらに代わるものとして今年度は高3対象の大学説明会を学校内で実施したり、ZOOM等を利用して大学の出張講義を数多く実施・計画したり、保護者対象の進路説明会に講師を招き	進路指導部 学年会
⑧ 旧帝大等の難関大10名、広島大20名、早慶上理30名、関関同立100名以上が合格する。	個人面談・三者懇談・LHR等を通じて生徒個々の学習意欲を高めるとともに、学力向上にむけた具体的な学習方法について指導助言する。			

			講演会を実施して進路意識を高める取り組みを行っている。	
--	--	--	-----------------------------	--

4 時代の変化に対応した、教育内容の開発と校内体制の構築を図る。				
達成目標	本年度行動計画	進捗について中期評価と理由等		担当
① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組む。	生徒の学びを深化させるためのICT機器の活用手法について学ぶ研修会を実施する。	B	ロイロノート, zoom の研修会を企画した。	教務部
	オンライン授業の経験をもとに、授業改善を組織的・計画的に行う。	B	ロイロノートや classi を用いて生徒から意見の集約をするなど活用が進んだ。	
	ICT機器によるさまざまなデータの蓄積を促し、学習面・生活面からの生徒支援を推進する。	C	学習時間調査を5、6、10月に行った。	
	広く校外にも参加を呼びかけ、公開研究授業を行う。	D	新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施できていない。	
② 新学習指導要領に対応した教育課程を作成する。	令和3年度の教育課程を検証し、令和4年度入学生の教育課程表を作成する。	B	令和3年度に改定した教育課程を元に新課程である令和4年度の教育課程を作成した。	教務部
	テーマを設定した探究的な学習への取り組みを行う。新指導要領に則った授業評価の項目を研究する。	B	前年度に Discovery の授業を発展させより探究活動を取り入れたカリキュラムを編成した。本年度はそれを踏まえ来年度に向け検討をしている。	
③ 城北の魅力、機会をとらえて積極的に情報発信する。 学校行事だけでなく日常的な教育活動について、学校の魅力を積極的に校外に発信することにより、受験者数の確保に繋がる情宣活動を推進する。	ホームページの更新頻度を週5回以上とし、教育活動を校外に発信する制度を構築する。	B	行事の様子や最新情報等、各学年・部に依頼し、随時更新している。4月から10月までに延べ134の記事を掲載した。	総務部
	定期的に広報誌を発行し、教育活動の広報を校外に積極的に発信する。規模を限定した Saturday Open School を年間11回実施し、コロナ禍に対応した広報活動とする。	A	それまでの学校案内会をコロナ下でも実施できるように1回30名程度を上限として Saturday open school を年間11回計画して実施した。緊急事態宣言で3回実施できなかったが、満足度の高いイベントとなった。	入試広報部

④ 医進コース・自主的探究活動のカリキュラム開発と広報活動を進める。	新コースの魅力を生徒の参加も含めて幅広く周知活動を行い、意識の高い生徒集団の入学に繋げる。	B	<p>医進コース運営委員会にて年間のALカリキュラムを作成し、毎週内容の確認をしている。</p> <p>ALの活動内容を毎週HPで公開している（「今週の医進」）。</p> <p>8月の医進コース説明会は、AL体験以外はすべて医進コース生が行い、AL体験も生徒が説明したり、サポートしたりと、医進コース生が主体となって取り組んだ。その結果、参加者から好意的な声を多くいただいた。</p> <p>11月に医進コース入試説明会を予定しており、医進コース生には受験を考えている児童・保護者にアドバイスをしてもらう予定である。</p>	医学科 進学コース 担当者
		B	<p>コロナ禍による制約はあるものの、「プログラミング」「SDGs」のそれぞれが年間計画に沿って探究活動を進めている。公開講座でのプレゼンや外部のコンテストへの参加等を通じて活動を発信している。探究を特色とするコース設定を見通した実際のカリキュラムの見通しは立ってきた。</p>	探究活動 企画委員会
⑤ 新型コロナウイルス感染防止対策を推進する。	校内での教育活動での指針を策定し全職員で共有し、実行する。	B	<p>フローチャートを作成し、状況に応じた対応をして、感染防止を積極的におこなった。</p>	総務部

取組の進捗状況の評価

A: 目標に向けて計画以上に進展している。

B: 目標に向けて計画通りに進展している。

C: 目標に向けて不十分な点もあるが概ね計画通りである。

D: 目標に向けての取組が不十分である。

E: 目標に向けて取組がほとんど手付かずである。